

会誌編集部を次代につなぐ

会誌編集部 森川 治美

会誌の発行目的は、図書室担当者が座右に置き、業務に活用できる情報を誌面で提供する事である。編集部員の企画は時代時代において、この目的を継承し、なお協議会の会誌として、会の運営方針や会員へのアナウンスなどを網羅し、ネットワーク構築のための役割を担ってきている。

1980年、「会報」から協議会会誌「病院図書室」として発行され、2000年には「病院図書館」と改名し、新たなISSNを持った。20世紀ミレニアムの年に20巻を数え、まさに雑誌の成人であると考ええる。

6年前の1994年、14巻では、協議会創立20周年を迎えていた。その創立20周年誌には、金の帯をかける事が考案されていた。しかし1995年1月17日の阪神淡路大震災に直面し、金の帯は慰霊の意味もこめて銀の帯にされたと聞かされている。悲しく、辛い体験をした多くの会員の教訓をまとめて報告した15巻は、協議会の団結心を読者に知らしめている。

会誌「病院図書室」はシリーズ記事のロングランも達成させている。「医学用語あれこれ」の20回連続掲載である。これはさらに、「わかる医学用語」として、協議会創立25周年記念フォーラムにあわせて発行され、現在も好評発売中である。著者である濱口恵子氏の長年にわたる努力と会誌編集への熱い思いがなせた事と敬意を表する。1992年12巻からは、「臨床に役立つ雑誌」が開始され、会員機関の医師のご協力により病院図書館員のための雑誌講座というべ

き貴重な資料として現在も継続中である。また、1998年18巻より「今すぐ役立つホームページ」がシリーズに加わり、病院図書館員としてチェックすべきホームページが紹介されてきている。これは今後、須井麻由美氏のご協力により、さらに興味あるシリーズとして成長していく事であろう。同時期にもうひとつ、文献相互貸借の実務が必要不可欠になってきた時代背景から、「相互貸借のための便利ノート」がシリーズとして掲載されるようになった。新任担当者の実務マニュアルの一つとしての利用を目的とすると共に、今後は文献取り扱いに関する基礎知識の充実等、幅を持たせた内容を提供すべきであると感じている。このようなシリーズ継続も、今後は、時のニーズにあった記事を企画していく事になるだろう。

今後も会員機関からの情報提供だけでなく、会員のために必要な情報は、図書館におけるあらゆるジャンルを対象にした特集企画を目指し、貴重な情報として、より永く読み返されることを目指していきたい。

最近では、会員以外の読者も徐々に増え、企画・編集にもさらに緊張が伴っている。重圧を感じる事もあるが、あくまでも会員相互の連携と協力、そしてレベルアップを目標とし、協議会会誌らしい誌面づくりを目指していきたい。

協議会創立25周年誌の表紙に金の帯をかけられた事を喜び、編集に携われたことを感謝したい。

成人となったこの会誌が、さらに熟年となっていく事を願い、次代に向って今をしっかりと繋いでいきたいと考えている。